

三空庵（さんくあん）広場

三空庵広場（さんくあん広場とも呼ばれる）は、山腹にある墓地と、内山（うちやま）地区の大通りと平行に流れる川との間にある。三空庵という名前は、昔この地にあった庵から取ったものである。

広場の一角にある小さなお堂には、木製の地蔵菩薩像が立っている。高さ 2.6 メートルのこの地蔵は有田町の重要文化財に指定されており、近くにあった大きな柿の木にちなんで柿の木地蔵（かきのきじぞう）と呼ばれることもある。この像は、1828 年 8 月 9 日に内山一帯を襲った文政の大火（ぶんせいのたいか）による被害を見事に免れた。この町に住んでいた徳三郎（とくさぶろう）という男が地蔵を救おうとしたが、重くて動かせなかったため、背負って運べるように軽くなってくれと祈ったところ、不思議なことに地蔵が軽くなり運び出すことができた、という伝説がある。この地蔵の下の方には、焼け跡を今でも見ることができる。

また、広場北側の山腹にある墓地は、墓標の文字が金色である点が特徴である。これは日本の墓地ではほとんど見られないものであり、中国が九州北部の文化に影響を与えた名残だと言われている。